

な視点でも、ぜひ市長さんに橋渡しを進めていただきたいと思います。

最後に、1つ紹介させていただいて質問を終わりにしたいと思いますが、これは45歳の農業の方のお話なんです、4人の子供さんがいらっしゃるって、3人目の子供さんは障がいを持って生まれたということです。その障がいについても、障がいがあったけれども、奇跡のようにかわいい赤ちゃんでした。自分の足では歩けない、周りの音が聞こえない、声を出すことができない、何だたったこれだけです。障がい、何ぼのもんじゃいという農業の方の言葉です。

確かにこれが先ほど市長さんが言われた障がいのある方が普通に過ごしてる社会、長井工業の方がおっしゃいましたけれども、あそこの高等部の子供と、それから長井工業の生徒と一緒に暮らすんですが、一切問題がないと、何のぶつかりもないと。かえって一緒にいることが長井工業高校にとっていいことなんだろうと、そういうお話をされました。長井市内にとっても、そうだと思います。本当に障がい何ぼのもんじゃいと言えるような長井市でありたいと思いますので、そういうことを願って、私からの質問を終わりにしたいと思います。ありがとうございます。

○平 進介議長 ここで、昼食のため暫時休憩いたします。再開は午後1時といたします。

午前11時55分 休憩

午後 1時00分 再開

○平 進介議長 休憩前に復し、午前に引き続き会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

なお、鈴木一則議員から資料の配付について申し出があり、会議規則第150条の規定により、

許可いたしましたので、ご報告いたします。

鈴木富美子議員の質問

○平 進介議長 次に、順位3番、議席番号10番、鈴木富美子議員。

(10番鈴木富美子議員登壇)

○10番 鈴木富美子議員 清和長井の鈴木富美子です。

ことしも残すところ1カ月を切りました。ことしの夏は猛暑が続き、秋には台風15号、19号、そして21号による大雨の影響で、日本列島に大きな被害をもたらしました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く日常の生活を取り戻すことができますよう、心よりお祈りいたします。

それでは、質問に入らせていただきます。当局の明確なご答弁よろしくお願ひいたします。

第1項目は、昨年12月議会において、東京オリンピック・パラリンピックに向けての質問をさせていただいた件について確認させていただきます。

初めに、ことしの長井マラソン大会は天候に恵まれ、ランナーにとっては絶好のコンディションではなかったかと思われまふ。老若男女が長井市内を駆けめぐり、長井市が活気づいてよかったと思ひます。ことしの長井マラソン大会は、昨年の反省を踏まえ、どんな点を改善したのか、どんなところに気を配ったのか、生涯スポーツ課長にお聞きいたします。

次に、長井マラソン大会の参加者についてお聞きします。

昨年は887人、ことしは1,108人のエントリーと、220人ほど多くの皆さんに参加していただいたようです。県外、市外からの参加者のための宿泊施設へのあっせんを山形アルカディア観

光局と連携してはどうかと昨年提案させていただきましたが、ことしはどうだったのか。申し込み時に参加者にあっせんしたかのかも含めて、生涯スポーツ課長にお聞きいたします。

また、長井マラソン大会に中華人民共和国の選手が参加されたとお聞きいたしましたが、参加された経緯と何人の選手が参加されたのか、あわせて生涯スポーツ課長にお聞きいたします。

続いて、平成30年12月の定例会において、オリンピック・パラリンピックに向けて関係する課を統一し、庁内を横断的にオール長井で取り組んでいくとの市長の答弁でしたが、ことしのマラソン大会において、タンザニア連合共和国と中華人民共和国の選手団と国外からの参加者が多い中で、交流会や歓迎会、マラソン大会等のイベントの対応はスムーズにできたのか。また、交流会の費用等についても地方創生参事にお聞きいたします。

最後に、市長にお聞きいたします。

ことしは、タンザニア連合共和国選手はもちろんですが、中華人民共和国の選手も走りました。国際色豊かな長井マラソンでしたが、市民への周知がまだまだ足りないと思います。例えばですが、日曜日の開催なのですが、沿道の小学生の応援もあつたらいいのではないかと思います。

令和2年がオリンピックの本番です。オリンピックが終わっても、国際色豊かな大会にするのか。今後、長井マラソン大会をどのような大会にしていくのか、市長の見解をお聞きいたします。

次に、学校教育課長にお聞きいたします。私は7月25日から8月3日までタンザニア連合共和国に市民訪問団の一員として、訪問させていただきました。9月議会で感想を述べさせていただきましたが、同行した中学3年生のお二人から、このたびの訪問についての感想など聞かれていますか。課長にお聞きしたいと思います。

また、8月28日から30日に日本で開催されたアフリカ開発会議、この会議は、日本政府が主導し、国連、国連開発計画、アフリカ連合委員会及び世界銀行と共同で開催するアフリカの開発をテーマとした国際会議で、日本が主催する最大規模の国際会議だそうです。ことしは第7回目、約4,500人以上の国家元首、首脳級、国際機関及び地域機関並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表などが参加されたそうです。この会議においてタンザニア連合共和国を訪問した、2人の生徒さんが意見を述べられたとお聞きしております。同行なされた学校教育課長にその内容や様子などをお聞きしたいと思います。

最後になりますが、このたびの中学生の生徒さんのように訪問された体験を中高生にもらうことにより、今後の教育にどのように生かしていくのか、教育長のお考えをお聞かせください。

続いて、第2項目に入らせていただきます。ながい健康マイレージを活用し、健康寿命を延ばす、市民一人一スポーツの推進を高める施策を考えたいと思います。

やまがた健康マイレージ事業は、山形県が幅広い年代の方々から健康づくりに取り組む意欲を高めていくため、市町村と共同して実施している事業です。参加者は、毎日の運動や健康的な食事などの目標を達成した場合、また健康診断の受診、市町村が実施する健康講座やスポーツ教室、地域活動に参加するごとにポイントが獲得できます。一定以上ポイントを獲得できた人には、市町村からやまがた健康づくり応援カードが交付されます。このカードを持つ人は、協力店でカードを提示すると、さまざまな特典・サービスを受けられるという事業です。

9月の定例会で、竹田陽一議員の特定健診の受診率向上の取り組みの質問の中で、市長より健康マイレージの説明がありましたが、まだま

だ多くの皆さんに知っていただき、活用することで、健康寿命を延ばす手助けになることを期待して質問をさせていただきます。

初めに、長井市はこの事業をどのような形で、市民の皆さんにPRしているのか、健康課長にお聞きいたします。

事業開始年度、平成27年度からの発行枚数もあわせてお聞かせください。また、カードには有効期限があるのかもあわせて健康課長にお伺いいたします。

ポイント獲得についてお聞きいたします。長井市において、どんな事業、どんな場所でポイントを差し上げているのか健康課長にお伺いいたします。

また、協力店は、市内では16企業、置賜では30企業で協力店の登録をいただいているとお聞きしましたが、お客様がカードを使ってサービスを受けた状況などは、長井市としては把握をしているのか。健康課長にお聞きしたいと思います。

協力店についてお聞きいたします。例えば店名が変わったとか、サービス内容を変更したとか、協力店がふえたなど、カードを利用する市民の方にはお知らせしているのか、お知らせする時期は、その都度お知らせしているのか、あるいは1年に1度当初にお知らせするのか、健康課長にお聞きしたいと思います。

第2項目の最後ですが、やまがた健康マイレージ事業ですが、ながい健康マイレージ事業として、県の事業そのものではなく、例えばポイントを上乘せし、達成した人には、長井市より血圧計を進呈するとか、長井市独自の施策はできないのでしょうか。健康に対する市民の意識向上に努めていくべきではないかと思えます。市民一人一スポーツの推進もなかなか難しいですが、ポイント制度をうまく活用し、スポーツへの関心、自宅へのひきこもりを少しでも解消できる一助になるのではないかと思えます。こ

のことににつきまして厚生参事のお考えをお聞きいたします。

以上で壇上からの質問終わります。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木富美子議員のご質問にお答えいたします。

議員から大きく2点、2項目ご提言をいただいておりますが、そのうち私のほうからは、最初の2020年オリンピック・パラリンピック関連事業についてということで、昨年12月定例会でいろいろご質問やご提言をいただきましたけれども、その後の展開はどうなってるのかということでのご質問をいただきました。

オリンピック・パラリンピック終了後の長井マラソン大会の運営についてのご提言でございます。

私ども長井市のほうでは、春先の白つつじマラソンと、それから10月の長井マラソン、2つ大きな大会を行ってるわけですが、これ以外にも駅伝等々やってるわけでございますけれども、以前よりこの2つのマラソン大会を一つにできないかということでの検討を生涯スポーツ課を中心に過去、五、六年前ぐらいから一時期、3年ぐらいかけて検討した時期がございました。

それは富美子議員ご承知のとおり、県内でも多くの市町村がいわゆる市民マラソンということで大きな大会を開催しております。大体はハーフマラソンを頂点に、また10キロ、あるいは5キロ、3キロ、大体4つか3つぐらいのコースに分けて、少ないところでも1,500人、2,000人、多いところだと東根のさくらんぼマラソンなんかですと1万5,000人ぐらいの大規模でやってみて、私どもでは必ずしも1万人を超えるような大会ができるかということありますが、もう少し多くのランナーに参加いただいて、長井の知名度も上がりますし、また地域での経済効果も上がるということから検討していただい

たんですが、白つつじマラソンはこれはこれで大変伝統がありまして、また長井マラソンについては最初は市民の有志の皆さんがもう手づくりでなさったのを30年を機に私ども市のほうでさまざまな事情があって引き継いだものでございますが、特に長井マラソンについては競技性が非常に高く、やっぱりフルマラソンですから、フルマラソンで2,000人、3,000人というのはなかなかこれは至難のわざだろうというふうに思っておりまして、そういった意味では700人、800人規模というのはこれすばらしいことだというふうに思っているところでございます。

したがって、これらの検討は引き続き行ってまいります。来年についての考え方をお話しさせていただきたいと思っております。

まず、ことしの長井マラソンの総括といえますか、中間的な一旦の総括でございますけれども、タンザニアからは8名の選手、男女4名ずつでございます。また、中華人民共和国からは25名の選手団といえますか、ランナーが参加いたしました。今回はさらに国際色豊かな大会になったと思っております。

来年以降の大会については、タンザニア、中華人民共和国の選手の参加について、タンザニアのホストタウンとして来年以降も、東京オリパラ終了後も事後交流に取り組んでいくことから引き続きタンザニア選手の招待をしていきたいと考えております。

タンザニア連合共和国では、女性の社会的地位の向上を目的といたしまして、JICAと、それからイカンガーさんが連携してタンザニア初の女性陸上競技会、レディースファースト、富美子議員もご存じだと思いますが、これを一昨年から開催しております。このレディースファーストの入賞者から選抜された方が日本に来ることができて、そして長井マラソン大会に参加していただいているということでございます。

オリパラが終わった後のタンザニア選手の長

井マラソン大会への参加については、このレディースファースト事業の趣旨に鑑みまして、女性選手を中心に総勢で10人程度の規模で参加を想定しているところでございます。

また、中華人民共和国からの参加でございますけれども、これは杜地さんという方が代表で日中友好関係、経済交流を図ることを趣旨として覚書を締結しております。この覚書は、3年間継続して長井マラソン大会へ参加する旨の内容もございまして、ご寄附も、多額の寄附もいただいております。杜地さんたちからは長井市への来市を大変喜んでいただいておりますので、来年以降も今度よりも多くの若手の選手も連れてきたいということで参加への意欲を語っておられました。

オリンピック・パラリンピックが終わった後もタンザニア連合共和国、中華人民共和国との関係を深め、交流を図っていきたくて考えておりますし、来年予定しておりますホストタウン中心とした東京オリンピック・パラリンピックでの長井市が交流しているドイツのバードゼッキンゲンやその姉妹都市、また中国の双鴨山市ですね、そういったところの交流を続けていきたいと思っております。ぜひ長井マラソンなどにもその2カ国以外からも参加いただけるようにPRを図っていきたくて思いますし、今後も引き続き大会参加者、今の状況のままですね、あと長井大会に対する市民の関心を高めるための、深めるためのPRや運営の工夫を行いながら盛り上がる大会にしていきたいというふうに思っているところでございます。

○平 進介議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 私からは、このたびの海外訪問体験をしてもらうこと、これを今後の教育にどのように生かしていくのかというご質問にお答えしたいというふうに思います。

今回はオリンピック・パラリンピック開催ということに加え、タンザニア連合共和国、そし

てリヒテンシュタイン公国のホストタウンとして登録できたという大変うれしい出来事が続きました。ホストタウンで訪れた皆さんが学校で交流をしていただきましたけども、このことはそれぞれの学校の子供たちに非常に大きなインパクトを与え、喜びも与えたというふうの子供たちの表情を見て率直に感じているところです。

長井市では、長井の心を持ち、たくましく生き抜く力を育むことを教育の目標として、世界で活躍できる人材の育成に取り組んでおります。

今回海外に出た2人の中学生ですけども、非常に大きな視野の広がりを感じました。自分と世界とのつながりだけでなく、例えばタンザニアのために働く日本人の発見ですとか、それからJICAとその新たな知識ですとか、改めて日本と世界のかかわりということに気づいているということが私にとっても非常に大きな喜びであったというふうに思いますし、子供にとっては視野の広がりという点で非常に大きなことだなというふうに思います。

かつこれが学校に帰ってからのいろんな発表会をしているわけですけども、学校日より等見えますとそれが1人の子供だけではなくて、多くの仲間に非常に大きな影響も与えてるなということも感じたところでございます。

今回ホストタウンとしてタンザニア陸上の選手団やリヒテンシュタインのオリンピック・パラリンピックの関係者の交流を通して、自分たちは世界と結びついていること、そして英語を介して世界の人とコミュニケーションがとれること、加えて改めて自分たちの暮らしている日本や長井市のよさに気づくこと、これらが今後ともできればいいなというふうに考えているところです。

来年度の東京オリンピック・パラリンピック、2020年の事業を効果的に活用しながら子供たちの中でさまざまな国の人々と心を通わすことの

喜びとか、それから世界の中で自分がいるということの実感を味わわせるとともに、国際理解力、英語力、そして長井の心の育成などに取り組んでまいりたいと考えております。

○平 進介議長 竹田利弘地方創生参事。

○竹田利弘地方創生参事 私のほうからは、長井マラソンに関連した各イベントへの対応とそれに係る費用についてお答えいたします。

ことし10月に行われました長井マラソン大会と関連するホストタウン事業につきましては、タンザニアから18人の選手団、中国から25人の選手をお迎えし国際色豊かに開催されました。

議員からご質問のありました庁内を横断的にオール長井で取り組むことができたのかについてでございますが、このたびは昨年度の反省も生かしまして、マラソン大会のいわゆる競技の部分につきましては生涯スポーツ課、それ以外のイベント、例えば宗兄弟とイカンガーさんとの講演会や交流会、歓迎会等については総合政策課で担うことで調整し、さらにはタンザニア選手団が平野、伊佐沢、豊田の各小学校及び南中学校を訪問したわけでございますが、それにつきましては学校教育課と綿密に事前の協議を行いまして、スムーズな対応ができたと思慮しております。

また、議員から後段でご質問のありました置賜生涯学習プラザやTASで行いました歓迎レセプションなどの交流会の経費につきましては、いわゆる飲食分の実費につきましては市民の皆様や各種団体関係者などの参加者からは会費をいただき、またタンザニア選手団や通訳の方お願いしてるわけですけども、その分については人数分の会費相当分を市から支出し対応したものでございます。

○平 進介議長 竹田 洋学校教育課長。

○竹田 洋学校教育課長 それでは、私のほうから、鈴木富美子議員から質問いただきました中学生の感想についてお答えいたします。

8月2日にタンザニアから帰国した後の8月6日と25日の2回に分けて、旧長井小学校第一校舎を活用させていただいて、2人の中学生と感想の聞き取りやまとめの資料作成などを行いました。

2人からは、まず第1に、タンザニアの皆さんから明るく歓迎してもらえた、親切な方がとても多かった、一緒に野球をして交流したときにミスをしてドマイというふうに言ってくれてうれしかったといった触れ合いをもとにした温かな心の交流に関連した感想を第一に聞くことができました。

また、タンザニアの農産物、スパイスに関するツアーであったりとか、歴史的な価値のあるプリズン島、ストーンタウン島などの見学から日本との自然環境の違い、そして経済発展、成長の歴史について学び、先ほどの教育長の答弁にもありましたけれども、今までと物の見方がやはり変わったといった感想、そしてこれからは文化交流という面でもぜひタンザニアとかかわっていききたいといった心境の変化であったり、前向きに取り組んでいこうとする意欲ある感想、これを聞くことができました。

続きまして、2つ目のご質問にありましたアフリカ開発会議における中学生の意見発表の様子についてお答えいたします。

この会議は、先ほど議員からもありましたように、8月30日に第7回となるアフリカ開発会議開催に伴う東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウン友好促進イベントとして横浜で行われました。

日本国内においてアフリカの国々とホストタウン登録を行っている10を超える市町村の小中学生が集まり、それぞれの地域の特徴を紹介したり、またこれまでのホストタウンとしての取り組みや今後の交流に向けた予定などを発表したりしました。

会場に参加したアフリカ各国の代表者、オリ

ンピック・パラリンピックの関係者、支援者の方と寄せ書きを交換し合ったり、一緒に写真におさまるなどとして大変和気あいあいと交流を深めることができました。

長井市もさきにタンザニアに訪問した2人の中学生が参加し、長井市の特徴やよさを紹介した後に、さきにお話ししました感想を中心に発表を行いました。特に長井市の2人の発表は、ほかの市町と違い実際にタンザニアの現地に訪問してからの話ということで、実体験をもとにした写真入りのプレゼンテーションなどこれらは会場の中で大変注目をされ、高い評価をいただいたところです。

大変すばらしい内容でしたので、次年度以降やはり中学生、高校生など男女を問わずぜひ経験させたいものだな、このようなすばらしい経験はこれからも生かしていけるのではないかと、私自身もすばらしい経験をさせていただいたというふうに関心入りながら戻ってきたところです。

○平 進介議長 金田文明生涯スポーツ課長。

○金田文明生涯スポーツ課長 私のほうからは、長井マラソン大会についての昨年度からの改善点はどういう質問に対して答弁いたします。

改善点、どんなところに気を配ったのかということでございますが、昨年の12月議会で鈴木富美子議員のほうから長井マラソン大会においての問題点、改善点はどういう質問に対して3点ほど答弁いたしました。その3点についての改善策についてお答えいたします。

1点目は、ランナーの安全対策であります。昨年の大会同様一部の区間に交通規制を設けさせていただきましたが、昨年規制がかかってない区間であります西根地区内の県道長井白鷹線を選手と並走となる南進する車両の通行を規制したところであります。背後から追い抜いていく車両に恐怖を感じたという声が多くあったことと警察の指導により交通規制を行い、選手

の安全対策を行ったところでした。

2点目であります、大会の募集開始時期を早めることについてです。既にほかの大会への参加申し込みをしてしまった。長井の大会に出たかったという声があったことから、RUNNET、郵便振替、事務局窓口での申し込みを昨年度までは6月から行っていたところをことしの大会はRUNNETでの申し込みを例年より5カ月ほど早めて1月から、郵便振替、郵便局窓口での申し込みを3カ月早めて3月から受け付けを始めてきたところ です。

3点目でございますが、大会運営の体制でございます。選手、車両の誘導や給水所、競技運営全般にわたり多くの皆様からご協力をいただいております。スタッフの確保、充実については毎年苦慮してるところであります、市報等でボランティアの募集を行ってきたところ問い合わせが数件ありました。新たに米沢のほうから10名のボランティアの申し込みがあり、また大正大学の学生がこの期間1カ月ほどフィールドワークで長井に滞在しておりましたので、フィールドワークの一環としまして13名の学生の方よりお手伝いをいただいたところ でありました。

ほかに改善点、新たに行ったこと ありますが、タンザニア、中華人民共和国から選手が参加することもあり、コース上の距離表示看板、各種案内看板につきまして日本語、英語、中国語での3カ国語を表記し、案内してきたところ であります。

また、道の駅川のみなと長井では、道の駅に立ち寄っていただくために大会参加者へ5%引きのチラシを配布しました。道の駅で買い物をしていただくという企画を実施してきて おります。

次に、長井マラソン大会の申し込み時におけるアルカディア観光局との連携はどうであったかということ ありますが、大会要項のパンフ

レット、また大会参加申込者のRUNNET情報に宿泊先のお問い合わせ先としてやまがたアルカディア観光局の情報を掲載し、参加者に周知してきて おります。

また、大会参加申込者から宿泊先の件でスポーツ課のほうへ問い合わせがありますとアルカディア観光局を紹介し、申し込みいただくように努めてきたところ です。

観光局にお聞きしたところ、宿泊の問い合わせが4件あり、宿泊先のあっせんをしたとの報告を受けて おります。

なお、来年に向けてであります、長井マラソン参加者向けの長井の観光PRとか旅行商品の検討などということ によって観光局の連携をさらに深めていきたいと考えて おりますので、よろしく お願いいたします。

中華人民共和国の選手団が参加した経緯はということ ありますが、先ほど市長の答弁にもありまして、ちょっとダブる点もありますが、市内企業の役員の方が関連会社の中華人民共和国への進出をきっかけに中華人民共和国の杜地さんと親交を深めた縁でマラソン大会への参加が実現することになりました。杜地さんからは、長井市のスポーツの振興に寄与することと長井市と大連市との今後の友好と経済交流を願って、ことし5月に300万円ほどのご寄附をいただいております。このような経緯により、杜地さんを代表とする選手団25人の方より長井マラソン大会の参加をいただいたところ でありました。

○平 進介議長 小関浩幸厚生参事。

○小関浩幸厚生参事 私には、ながい健康マイレージ事業をポイントの上乗せなどをし、市民の健康に対する意識向上につなげていくべきではないかとのご質問でございます。

人生100年時代に高齢者から若者まで全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくるのが重要な課題となっております。そして有意義な100年時

代を送るためには、健康を維持増進することが最重要課題と考えております。

市では、健康増進計画、第2次の健康日本21ながいにおいても市民の皆さんの健康意識向上を基本目標として、もっと健康、ずっと健康でいるための事業を展開しております。食生活改善推進協議会や運動普及推進の会と連携をした健康教室、運動不足解消教室、ノルディックウォーキング教室やミニデイサービスに参加していただくことで健康意識向上と健康寿命の延伸を推進しております。

ながい健康マイレージ事業は、これらの健康づくり事業への参加者をふやす、健康診断受診率を上げる有効な施策として取り組んでいるところでございます。

ながい健康マイレージ事業に市独自のポイントを上乗せするというご提案でございますが、より一層の市民の健康づくりに資するためには応援カードの普及をしていかなければならないと考えています。

他市町村の状況といたしましては、地元温泉宿泊券、健康器具等を抽せんで贈呈するところが多いようでございます。これらを参考にしながら今後検討してまいりたいと考えております。

加えまして、今後急速に整備が進むと予想されるマイナンバーカードを活用した自治体ポイント等の制度とも連携した取り組みを検討してまいりたいと思い、進めているところでございますので、ご理解のほどよろしく願いいたします。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 私には、健康マイレージ事業につきまして5点ほどご質問をいただいておりますので、順次お答えを申し上げます。

まず、1点目でございます。ながい健康マイレージ事業のPRはどのようにしているのかというご質問でございます。

健康マイレージ事業ですが、県のやまがた健康マイレージ事業に市町村が参加し、県と共同で実施する事業でございます。鈴木議員からもございましたように、毎日の運動や健康的な食事など目標を達成できた場合や健康診断の受診、市が主催する健康教室やスポーツ教室、また地域活動に参加してポイントを獲得するものでございます。一定のポイントを獲得した方にはやまがた健康づくり応援カードを発行いたしますので、カードを提示すると県内の協力店でさまざまなサービスが受けられる事業でございます。

市民への周知方法といたしましては、健診の結果説明会、昨年は約29回開催してございますが、その際に健康マイレージ事業のパンフレットを配布いたしまして、市民の関心と理解を深めるために啓発に努めているところでございます。

また、各ミニデイサービスやコミュニティセンターでの健康相談、健康教室等に出向きまして、健康づくりのために応援カード取得を推進しているところでございます。

市報におきましては、特集記事を掲載するなどしてお知らせしてございます。また、おらんだラジオでも情報を発信しているところでございます。

市のホームページには健康マイレージコーナーということを設けましてPRをいたしますとともに、ホームページのほうにリンクを張りまして、県のホームページから協力店の検索もできるようにしてございます。

ながい健康マイレージ事業でございますが、特定健診、がん検診の受診率向上にも期待されると思ってございます。あらゆる機会を捉えまして周知、啓発に今後も取り組んでまいりたいというふうに考えてございます。

2点目でございます。事業開始からのカード発行の人数は把握しているのか、有効期限はあるのかにつきましてお答えいたします。

やまがた健康づくり応援カードの発行人数でございますが、調べましたところ平成27年度が95人、28年度79人、29年度103人、30年度86人となっております。平成30年度を男女別に見てみますと、女性が61人、男性が25人というふうになってございます。年代別で見えますと、20代が2人、30代が1人、40代1人、50代5人、60代が33人、70代が37人、80代が7人ということで、60代、70代が8割を超えているという状況でございます。

有効期限でございますが、発行から1年間になります。健康づくりを応援する取り組みでございますので、毎年健診などを受けていただきまして、応援カードの取得をお願いしているものでございます。

次に、3点目でございます。ポイント獲得の主な事業や場所はどこかというご質問でございますが、健康課で配布してございます健康ポイント記録表に各自でご記入いただくというふうになります。記録表につきましては、各コミュニティセンターのほうに配置しているほか、人間ドック説明会、健診結果説明会におきまして、また健康教室におきましても配布しているところでございます。

ポイントでございますが、まず健康目標を立てますと10ポイント獲得というふうにしてございます。禁煙をすると10ポイント、健康づくりのために自分で決めたことを継続して実施すると10ポイント、また特定健診を受診していただきますと10ポイント、がん検診を受診しますと10ポイント、健康教室に参加すると10ポイント獲得になります。

ポイントの対象教室でございますが、生涯学習プラザを会場といたします運動不足解消教室、ノルディックウォーキング、また公民館でのミニデイサービス、各種地区公民館事業、また保健センター等を会場といたします人間ドック等の結果説明会、介護予防教室等でございます。

それぞれ10ポイント獲得になります。

合計して50ポイント獲得いたしますと応援カードの申請ができる仕組みでございます。

次に、4番目でございます。協力店でカードを使ってサービスを受けた人数は把握しているのかというご質問でございます。

市では、やまがた健康マイレージ事業の実施状況報告書を県のほうに提出することになってございますが、毎年4月10日までに参加の対象者、ポイント付与対象の取り組みとポイント加算内容、カードの発行基準、参加人数等を県に報告することになってございます。

サービスを受けた人数の報告のほうは求められておりませんので、現在のところは把握していない状況になってございます。

最後に、5番目になります。協力店の変更などはカードを利用する市民には伝えているのかということでございます。

マイレージ事業のパンフレットのほうには毎年5月1日現在の協力店一覧につきまして記載して配布してございます。また、応援カード交付の際に市のホームページの健康マイレージ事業コーナーから県のホームページにリンクして協力店の検索ができることをお伝えしてございます。県では協力店の変更や新規申請につきましては、一、二カ月分をまとめて更新しているということでございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 明確な答弁いろいろありがとうございました。

健康マイレージ事業についてお聞きしますが、ただいま健康課長のほうから禁煙したよと言うとポイントがいただけるということをお聞きしたんですが、その証明とかなんか、禁煙したと自分で思っても何かに証明とかなないともらえないと思いますが、そういうときはどうするのでしょうか。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 お答えいたします。

あくまでも本人からの申し出に基づきまして、当然申請の段階で聞き取りはいたします。ただ、あくまでも自分の健康づくりのためですので、私どもではそういったことをしているというものというふうに認識しまして受理しているところでございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 今までそういう方いらっしゃいましたでしょうか。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 皆さん真面目な方でございますので、みんなしっかりと申告しているというふうに認識しているところでございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 先ほど記録表はコミュニティセンターとか保健センターにあるとおっしゃってましたが、結局健診とかに行く人は真面目な方であって、健康を大事になさってる方だと思います。

その記録表は、市内全戸に配布するということはできるかどうか。市報に入れて、こういうのがあるからカードを皆さんに配布するとかしたほうが私はいろんな面でコマーシャルになると思うんですが、その点はどうでしょうか。済みません。健康課長、お願いします。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 鈴木議員より貴重なご意見いただいたというふうに思います。このマイレージですけれども、なかなか交付、取得人数が広がっていないということで、今までのPRでもなかなか難しいのかなというふうに考えてございますので、そういった面も含めまして上司に相談いたしまして今後検討していきたいというふうに思っております。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 ぜひお願いしたいと思います。やはり健康に関心のある方はありま

す。でもない方はないんです。なのでやはりますます人口減っていく中で、不健康になればますます市のほうも大変だなと私は思いますので、ぜひ若いうちから健康に留意されるような、少しでも長井市としてできることはしていただきたいと思います。

11月30日に保健センターで福祉あんしん課による研修会がございました。支え合いの地域づくりフォーラムというのがありまして、私も参加させていただいたんですが、この福祉あんしん課と健康課、そしていろんな課でもやっぱりそれぞれに健康であったり、皆さん老人の方を一人にさせないとか、苦勞しているいろんなことやっていますが、そういった庁内でのお互いに話し合う機会、健康課は健康課だけのポイント制度じゃなくて、やはり福祉あんしん課にもこういう制度も利用したらどうでしょうか、厚生参事にお伺いいたします。

○平 進介議長 小関浩幸厚生参事。

○小関浩幸厚生参事 支え合いの地域づくりフォーラムにご参加いただきまして、ありがとうございます。

本当に急激に少子高齢化社会進みますと、住みなれた地域に住み続けることが行政の取り組みだけでは不十分になります。地域での支え合い、身近なところでの助け合いが必要と認識しております。このようなフォーラムへの参加者をふやしていきたいと考えてるところです。

また、健康寿命を延ばすためにはまずは運動とよく言われるんですが、それより効果がある活動があるんだそうです。それは地区活動に参加すること、しかも役員などをするとさらに長寿になるというふうなしっかりした調査研究報告もあるというふうにお伺いしています。健康課の事業、厚生部門の事業に限らず健康につながる事業について広く取り組みを進めていきたいと考えていますので、検討させていただきま。ご提言ありがとうございます。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 やはりこれは長井市全体のものでありまして、皆で考えていくべきだと私もこの研修会に参加して思ったところです。ぜひ皆さんもこういう機会があったらみんな参加していただきたいと存じます。

教育長にお伺いいたしますが、先ほど学校教育課長からすばらしい中学生の体験をお聞きして、ほっとしたところです。やはり私もタンザニア行ったんですが、子供たちの視点は全然違うんだなということが本当すばらしいことだったと思います。

今後、教育長も生かしていくと言いましたが、やはりいろんな意味で、私は外国人の方とお会いすることそのものがすばらしいことだと思います。これから、先ほどもお聞きしましたが、英語教育を通してもっともっとさらに世界に羽ばたく子供たちのために具体的な施策を何か考えられたことはございますでしょうか。

○平 進介議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 これはタンザニアという一つの国だけでなく、それぞれこれから子供たちが出会ういろんな国とかかわるときのツールとしての英語というのは非常に必要だというふうに思います。今、市の施策では英検3級までの保障ですとか、それからもちろんこの市の売りであるALTがどの学校にもいるというのは本当に他市町から見ると羨望の的です。そういった日常的なものを充実させるというのがまず一番大事なことだというふうに思いますし、それから中学校の教科の中では日本文化の理解とか、それから世界文化の理解というのが英語の教科の中にあります。それやはりうまくというより充実させるというふうなことが一番大事なかなというふうに思います。まず足元の日常的な授業の中でそのようなことを充実させていきたいというふうに思っております。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 ぜひよろしくお願いたします。

最後に、市長にお伺いしますが、やはりマラソン大会、運営はすごく大変だと思います。ボランティア、私たちも少しでもさせていたideますが、そのボランティアがうまくいけば大会も運営もうまくいくと思います。

つつじマラソン、やはり地元の方がいっぱい参加できるマラソンであって、長井マラソンもぜひこれからも続けていってほしいのですが、この間のマラソン大会のときにやはり市民の応援がまだまだ足りないのではないかなと思ったところです。それに対しまして先ほど話させてもらった中に、休みですが、子供たちにもちょっと学校から応援を何分かぐらいできないかななんてちょっと思ったところですが、市長としてはその辺どういうふうに考えられますでしょうか。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木富美子議員おっしゃるように、やっぱりランナーから見ますと応援というのは大変走っていても、つらさ、苦しいときに応援してもらおうとうれしいですし、また長井のマラソンで走ったという喜びがやっぱり声援をいただく、いただかないでかなり違うと思いますので、ここは大きな課題だと思ってます。

ただ単に動員をかけて、その時間みんなで応援してくださいでは多分だめなんだろうというふうに思っております、そこをどういうふうに考えていくかなんですけども、例えばなかなか我々もできないことなんですけども、今回は宗顧問に、茂さんのほうにお越しいただいて、いろいろ話をしたんですが、普通は大会終わったらその日のうちに総括するんだと。全員役員集まって、どこが悪かったか、ここ改善しなきゃいけない、ここはよかった、そういうふうにしてやっぱり、ああ、終わった終わったと。じゃ、来年近づいたらまた考えようではなく、や

っぱり今後の大会のあり方も含めて本当に大きく、大会をもっと盛り上げるんだったらそういうことをしていけないとだめなんだよということをお教えいただきまして、それは生涯スポーツ課のほうにできるだけ早い時期に総括しましょうと、こういう話をしているところです。

その声援の部分も含めて、私のほうは、フルマラソンは多分これ以上なかなかふえないので、ハーフもう少し力を入れたらいいんじゃないかという素人の考えがあります。あとは10キロと、この辺のところで数多くの市民、それから全国のランナーに参加していただいて、あとは3キロ、5キロは、この置賜の周りの大会は白つつじマラソンみたいに小中学生とかスポ少が参加してるんですね。ですからこの白つつじマラソンと一本化するというのは、なかなかこの大会運営も大変ですので、これらを含めて検討してまいります。一つ言えることはこれからもう少し大会を充実させるには、やはりスポンサー、以前から民間でなさったときも本当に苦労してスポンサーを集めてつくってましたね。パンフレット、そういったところを今回はいろんなちょっと大手さんなんか非常に応援していただけるというのわかったんで、もっと大会運営のあり方を少し考え方を考えていかなきゃいけない時期なんだな。それが来年あたりから改めて白つつじマラソンも含めて、そして声援、市民にもっともっとPRして、市民総参加でマラソンを歓迎と大会運営できるようなそんなものにしていきたいと考えたいと、検討してまいります。

○平 進介議長 10番、鈴木富美子議員。

○10番 鈴木富美子議員 ぜひマラソンのまち長井、駅伝のまち長井と銘打ってますので、今、市長のお言葉どおりこれからいろいろ検討していただき、市民も応援もしかり、ボランティアもしかり、皆さんでしていけたらいいと思います。

私からは以上です。ありがとうございました。

渡部正之議員の質問

○平 進介議長 次に、順位4番、議席番号3番、渡部正之議員。

(3番渡部正之議員登壇)

○3番 渡部正之議員 清和長井の渡部正之です。通告に従いまして、自身3回目の一般質問をさせていただきます。私からは2項目で6点質問いたします。一括質問にて質問させていただきますので、ご答弁のほどよろしく願いいたします。

初めに、このたびの台風15号、19号によりお亡くなりになられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被害に遭われました皆様に謹んでお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

千葉県を中心に強風の被害をもたらした台風15号からわずか1カ月後に、再び関東、東北に大型で強い台風19号が猛威を振るいました。台風19号については、気象庁の会見が、上陸3日前に早目の対策を呼びかける異例の会見であり、鉄道各社は計画運休を行い、電力会社も発電機車を配備するなど、できる限りの準備を行っており、上陸が予想される大型の台風に対して備える時間的余裕が以前よりあったのではないかと感じておりました。しかし、このたびの台風がもたらした雨は想像を超えるもので、台風15号での屋根被害や、停電の復旧がなされていない状況の中で各地の河川が増水し、堤防の決壊、損壊などから、氾濫し、家屋が浸水したりしており、山間部や、丘陵地では土砂災害が起きるなど、このたびのように多くの河川が同時に決壊、越水などすることは、経験のなかったことであり、地球温暖化に伴う気象変動による風水